

は し が き

本年度の研究報告の一つとして「研究双書12」を発刊します。

この双書は、自作ビデオ教材の開発の方法について当教育センターの所員が研究したものをまとめたものです。

学習者一人一人の能力を開発し、教育の効果と能率をあげるために、近代的な視聴覚教材や教育機器は大きな役割を果たします。これらの教育機器の多くは、そのソフトウェアである教材と表裏一体となっていてはじめて教育的な機能を生かすことができます。また、教材の内容や指示方法、さらに、指導方法と結びついてこそ教育効果を高めることができます。特に映像教材は、従来の文字を中心とした学習情報に加えて、視聴覚に訴える現実感のある情報提示ができ、児童生徒の経験の拡大に大きな効果があります。そこで、学習指導のねらいや内容および指導の課程など、教師の授業設計に適合した、しかも、児童生徒の実態に即した教材の開発が重要な課題となります。

本双書は、そうした要請に応じるために、教材と機器の特性を見極め、その効果的な利用の視点を明確にしたビデオ教材の自作について述べています。教材開発の視点を8項目にわたってとらえてビデオ教材の特性を把握するとともに、編集の基本技術についても分かり易く解説しています。そのため、専門的知識や操作経験の有無を問わず、手軽に編集作業ができるようになっています。より分かり易いビデオ教材を開発していくためには、本書の編集技術を身につけ、編集者の立場からカメラワークを修得することは極めて大切なことと考えます。

最近では、旧来に比べてはるかに高解像度・高画質の映像が期待できるビデオ機器の開発が進み、これを生かした忠実度の高い映像教材の自作ができると考えます。その意味においても、校内研修などの手引書として本書をご利用頂けるならば幸いです。

昭和 63 年 3 月

新潟県立教育センター所長

長谷川 武 雄